

記入例

病歴・就労状況等申立書

(請求する病気やけがが複数ある場合は、それぞれ用紙を分けて記入してください。)

病歴状況	傷病名	肺がん	
発病日	昭和・平成 不年 詳月 日	初診日	昭和 平成 23年 8月 14日
<p>記入する前にお読みください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 次の欄には障害の原因となった病気やけがについて、発病したときから現在までの経過を年月順に期間をあげずに記入してください。 ○ 受診していた期間は、通院期間、受診回数、入院期間、治療経過、医師から指示された事項、転医・受診中止の理由、日常生活状況、就労状況などを記入してください。 ○ 受診していなかった期間は、その理由、自覚症状の程度、日常生活状況、就労状況などについて具体的に記入してください。 ○ 健康診断などで障害の原因となった病気やけがについて指摘されたことも記入してください。 ○ 同一の医療機関を長期間受診していた場合、医療機関を長期間受診していなかった場合、発病から初診までが長期間の場合は、その期間を3年から5年ごとに区切って記入してください。 			
1	昭和・平成 23年 8月 14日から 昭和・平成 25年 9月 20日まで <input checked="" type="checkbox"/> 受診した ・ 受診していない 医療機関名 府立がん医療センター	発病したときの状態と発病から初診までの間の状況（先天性疾患は出生時から初診まで） 職場での検診でひっきり、再検査を受けたところ、左肺にがんが見つかった。腫瘍は大きい骨に転移はしていないと医師に診断された。9月20日に左肺の摘出手術のため1か月入院し、その後1か月ごとに通院して経過観察してもらっていた。痛み止めの強い薬と免疫賦活剤を処方してもらっていた。退院後も咳が止まらなかったり、傷跡がひどく傷むので身体を動かすことがつらく、家事もほとんどできず、日中も横になって過ごすことが多かった。	
2	昭和・平成 25年 9月 21日から 昭和・平成 28年 3月 13日まで <input checked="" type="checkbox"/> 受診した ・ 受診していない 医療機関名 同上	左の期間の状況 手術から毎年1年ごとに行っている経過観察の受診日（平成25年9月21日）に肋骨に転移が見つかり、医師から「手術できないので放射線治療をしましょう」と告げられた。家族に同席してもらって治療方法の説明を受けたが、ぼうっとしてしまってあまり記憶がない。体力が落ちていたこと、胸部の痛みもあって入院して治療することになった。放射線治療が始まってから食欲が落ち、ほとんど病室で寝て過ごしていた。	
3	昭和・平成 28年 3月 14日から 昭和・平成 現年 在月 日まで <input checked="" type="checkbox"/> 受診した ・ 受診していない 医療機関名 同上	左の期間の状況 半年ほどの入院を経て退院。痛み止めは医療用麻薬なのでこれ以上強い薬は出せないと言われているが、服薬していても痛む。外出は極力避けており、自力で立ち上がることができないので常に歩行器を使っている。息苦しさを感ずるので酸素吸入器を必ずそばに置いている。会話すると呼吸がしにくいので電話もできなくなった。医師から自宅で安静にしているように言われている。掃除や洗濯も一人ではできない。	
4	昭和・平成 年 月 日から 昭和・平成 年 月 日まで <input type="checkbox"/> 受診した ・ 受診していない 医療機関名	左の期間の状況	
5	昭和・平成 年 月 日から 昭和・平成 年 月 日まで <input type="checkbox"/> 受診した ・ 受診していない 医療機関名	左の期間の状況	

※裏面も記入してください。